

平成 28 年度第 7 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 28 年度第 7 回文系チャレンジ講座が、平成 29 年 1 月 25 日、「居場所」から社会福祉を考えよう」をテーマに大分大学福祉健康科学部の川村岳人先生によって行われました。

遠隔配信された大分雄城台・大分鶴崎・大分商業・^{あじむ}安心院・日田・中津南・別府翔青・三重総合・国東・臼杵・大分西の 11 校 (237 名) の高校 2 年生が受講しました。

先生は、事前に受講生へ「社会福祉が扱う問題は、現実の社会のなかで発生しています。いいかえれば、社会の変化にあわせて社会福祉の活動もまた姿を変えてきたのです。近年、「無縁社会」という言葉に象徴されるように、社会のなかで「居場所」を失う人が増えてきていると言われてはいますが、こうした社会的孤立の問題に取り組むことも社会福祉の大切な課題の一つです。みなさんはこれまでに家庭や学校で「居場所」がないと感じたことはありますか。人はどういうきっかけで「居場所」を失ってしまうのでしょうか。そうした人たちを支援するためにはどのような取り組みが求められているのでしょうか。このような問いの答えを探りながら、社会福祉の活動に対する理解を深めていきましょう。」と、メッセージを送りました。



川村先生は、まず①居場所とは何か、②居場所をもたない人の増加、③新しい居場所を作り出す、という三つの視点を提示し、それを通して社会福祉の

援助とは何かを考えていくことから、授業は始まりました。まず、「居場所」とは、「そこにいることが当然であり、周りからもそう認められている場所」と定義した上で、さらに「誰かと良好な関係をもって、お互いの存在を認め合うことがなければ、居場所とはならない。」と付け加えました。

多くの場合、「人はそれぞれの役割を果たすことにより、お互いの存在を認め合うものだ」と、説明しました。その「居場所」を持たず、社会から孤立していく人たちが日本では非常に多いという問題を、「核家族化（単身世帯化）」「近所づきあいの希薄化」「介護離職」などを原因として提示しました。「きょうよう（今日用事があること）」「きょういく（今日行くところがあること）」が高齢者を元気に過ごすためには大切だと言われてはいますが、仕事を失った人たちに「居場所を作ること（「今日用」「今日行く」を作り出すこと）」が必要であり、農作業等を行うことで、参加した方の仲間意識や役割感、承認感を作り出していくという実践例を紹介することで、「社会福祉の援助の本質は、衣食住だけでなく、居場所を作ること、つまりその人が社会とのつながりを取り戻すことを支援することだ」、という本講義の結論を強調されました。各高校の受講生に問いかけ、受講生の回答を取り込みながら、思考を深めさせる講義でした。受講生はこれまで持たなかった知識や概念、視点を手に入れることができました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」（99%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（98%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」（98%）という高い評価でした。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」（98%）、「映像はよく見えた」（96%）という結果がでました。受講生の具体的な声として「大変重い内容で考えさせられる授業でした」「居場所という言葉はよく聞くが、福祉の視点から考えることができた」「考える時間を与えてくれた」「社会福祉士を目指したい」など多くの感想が寄せられました。

い-ばしよ【居場所】
そこにいることが当然であり、
周りからもそう認められている場所



多くの場合、「人はそれぞれの役割を果たすことにより、お互いの存在を認め合うものだ」と、説明しました。その「居場所」を持たず、社会から孤立していく人たちが日本では非常に多いという問題を、「核家族化（単身世帯化）」「近所づきあいの希薄化」「介護離職」などを原因として提示しました。「きょうよう（今日用事があること）」「きょういく（今日行くところがあること）」が高齢者を元気に過ごすためには大切だと言われてはいますが、仕事を失った人たちに「居場所を作ること（「今日用」「今日行く」を作り出すこと）」が必要であり、農作業等を行うことで、参加した方の仲間意識や役割感、承認感を作り出していくという実践例を紹介することで、「社会福祉の援助の本質は、衣食住だけでなく、居場所を作ること、つまりその人が社会とのつながりを取り戻すことを支援することだ」、という本講義の結論を強調されました。各高校の受講生に問いかけ、受講生の回答を取り込みながら、思考を深めさせる講義でした。受講生はこれまで持たなかった知識や概念、視点を手に入れることができました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」（99%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（98%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」（98%）という高い評価でした。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」（98%）、「映像はよく見えた」（96%）という結果がでました。受講生の具体的な声として「大変重い内容で考えさせられる授業でした」「居場所という言葉はよく聞くが、福祉の視点から考えることができた」「考える時間を与えてくれた」「社会福祉士を目指したい」など多くの感想が寄せられました。